



# 熊本支部報

(公社)日本山岳会熊本支部

第 57 号

令和 5 年 8 月 28 日発行

編集・発行者 田北 芳博

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本市中央区帯山 1-25-17-801

山本 直方



阿蘇山上パノラマ（ヘリコプタ発着場東側より 8月末）

## 目 次

ページ

1 令和 5 年熊本支部総会議事録	事務局	山本 直	②
2 春期森林巡視登山（二ツ岳）報告		田北 芳博	④
3 残雪期穗高遠征報告		土井 理	⑥
4 干支の山「宝満山とウサギ道」報告		田北 芳博	⑪
5 花を愛でる会「荻岳とスズラン」		城戸 邦晴	⑭
6 春の例会 くじゅう「黒岳」報告		中村 寛	⑯
7 初夏の例会「御前岳 & 釧路岳」報告		戸上 貴雄	㉑
8 自然観察会「くじゅう蓼原湿原」報告		城戸 邦晴	㉓
9 登山技術講習会「くりから谷」報告		土井 理	㉕
10 九州 5 支部集会報告		土井 理	㉘
11 山岳古道調査「修驗道古道コース」報告		三宅 厚雄	㉙
12 会員の異動	事務局	山本 直	㉙

# 1 令和 5 年度日本山岳会熊本支部総会議事録

日時 令和 5 年 4 月 16 日(日) 10 時 00 分～11 時 00 分

場所 熊本県婦人会館 3F 大会議室

## 1. 開会

本会は、日本山岳会熊本支部規約第 13 条に基づき、支部会員数 32 名に対し、出席者 14 名・委任状 12 名・合計 26 名の出席をもって、適法に成立した。

## 2. 議長就任

議長に土井支部長が就任した。議事録署名人も兼ねることとした。

## 3. 議案審議

### 第 1 号議案

#### 令和 4 年度事業報告

事務局から、「昨年度はコロナ禍で 5 月から 9 月までのほとんどの行事を中止し、そのほかの時期も一般募集の中止や期日を短縮するなど規模を縮小して実施した。」旨報告した。

また。120 周年記念事業としての古道調査として、向霧立越の実地調査を完了し、現在阿蘇の修験者の道並びに外輪山の調査を行っている旨報告し、第 1 号議案は承認された。

### 第 2 号議案

#### 令和 4 年度収支決算報告

事務局から、昨年度はコロナ影響で支部行事の実施ができず、そのため、公益事業、共益事業の予算と実績との差異となったこと、特に公益事業費△52567 円は令和 4 年度総会で承認いただいた向霧立越の古道調査費を支払ったこと、未納は 4 月現在 1 名となったことを報告した。

以上の後、監査担当から収支決算が適正であった旨報告があり、原案のとおり承認された。

### 第 3 号議案

#### 令和 5 年度事業計画

事務局から次の計画等の説明を行い、山の写真展 12/1～15 フードパル熊本で実施することを修正して承認された。

### 第 4 号議案

#### 令和 5 年度収支予算

事務局から説明を行い、原案の通り承認された。

第 5 号議案

役員改選、委員会委員長変更について

事務局から古道調査委員長を中林顧問へ変更する旨報告し了承された。

4 .閉会

以上の通り全ての議事が終了し、本総会は閉会した。

本総会の議事の結果を証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人は署名捺印する。

令和 5 年 4 月 16 日

議長 議事録署名人



## 2 令和 5 年度春期森林保全巡視登山 (二ツ岳) 報告書

(ヒカゲツツジとアケボノツツジを求めて)

報告者 担当 田北芳博  
記

期日 令和 5 年 4 月 23 日 (日)

場所 二ツ岳本峰 (1257m) 南峰 (1260m) 宮崎県高千穂町上岩戸

1/25000 地図 見立・大菅

経費 1200 円 × 12 名 = 14,400 円

大津駐車場から登山口までの往復交通費。

(乗用車 3 台・下見乗用車 1 台)

往復 144km × 25 円 ×

(3 台 + 下見 1 台) = 14,400 円

参加者 12 名

1 班 CL 田北芳博・SL 山本直・中林暉

幸・橋本悦子・前田節子・本田敦子

2 班 CL 池田清志・SL 松本博美・

岩下律雄・浦川留美・池田のり子・

森尾奈美

集合 大津駐車場 (大津町生涯学習センター東側) 7 時 35 分出発

行程 大津駐車場 7:35 → 天岩戸神社駐車場 9:00 (トイレ休憩) → 登山口付近駐車ス

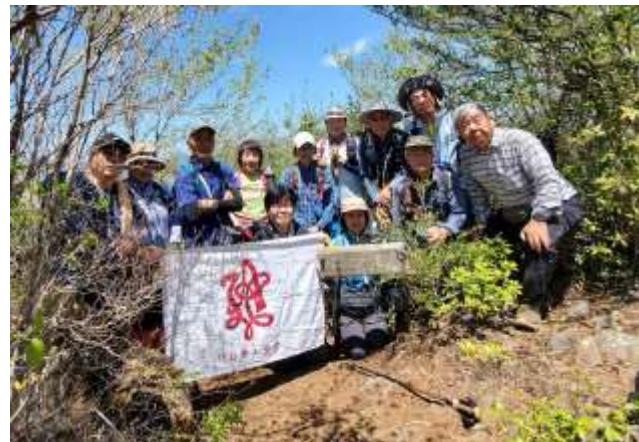
ペース 9:25 → 登山開始 9:35 (作業道歩き) → 作業道終点 (登山口) 10:05 → 煤市林道出合 (勘掛越) 11:20 一二ツ岳本峰

12:25 鞍部にて昼食 12:35 ~ 13:10 → 二ツ岳南峰 13:

30 → 往路を下山 15:40 → 天岩戸神社駐車場 16:10 (トイレ休憩・天岩戸神社) → 大津駐車場 18:40

### 登山報経緯

コロナ禍も落ち着いてきたこの頃、よい登山日和となりました。二ツ岳は宮崎県高千穂町の岩戸地区にあり、九州 100 名



二ツ岳山頂



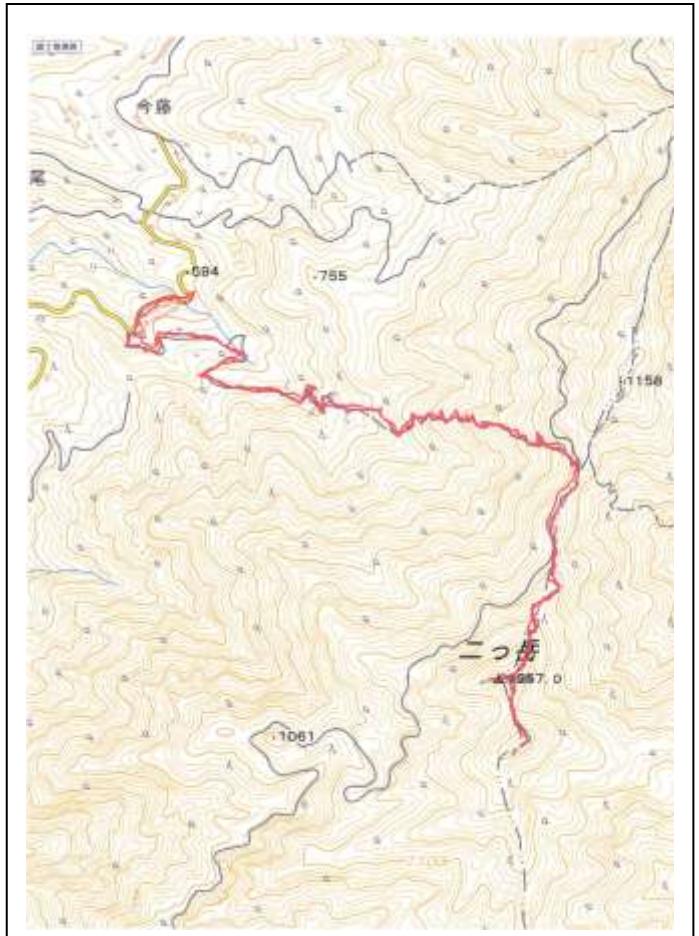
山にあげられます。山頂付近は国有林でヒカゲツツジの群生が見られ、アケボノツツジも楽しめた。

大津駐車場に集合し、7時35分には3台の車に分乗し出発した。途中高森峠、天岩戸神社にトイレ休憩し、9時25分には登山口先200mの県道207号線富野尾橋に駐車した。全12名であるが9時35分、2班に分けて登山口を出発した。ゆっくり足であったが、下山まで班分けの通り行動していただいたので班分けしてよかったです。作業道終点から先は急な登りが続いており、ゆっくり足で登山した。二ツ岳山頂に12時25分到着、本峰と南峰の鞍部にて昼食となった。昼食の後、南峰登頂した。

目的のヒカゲツツジは予想以上の満開であった。特に南峰の山頂周辺は黄色のヒカゲツツジが一面に咲き誇り、大群生を堪能できた。なおアケボノツツジも満開で至る所に見られた。

登りと同様、ゆっくり足で下山し、15時40分に駐車地点に到着した。

帰路、天安河原見物や温泉入浴はできなかったが、天岩戸神社に参拝し、大津駐車場に6時40分帰着した。



ヒカゲツツジ大群生に感動



天岩戸の湯) 前道路にて 左奥が二ツ岳

### 3 残雪期奥穂高岳遠征報告

023.05.02-05 残雪期奥穂高岳登攀報告

担当 土井 理

期日：2023.05.02(火)-05(金) 天候：3日間快晴

参加者：土井、城戸邦晴、中村、赤星、城戸幹雄

計画段階：5月2日の新大阪→上高地への直行バス(さわやか信州号)はオンライン予約開始直後からPC予約に繋がらず。繋がった時には残席5席。入金をしている間に既に残席0になると言う現状。5月連休の上高地の人気や人出は想像以上であった。

やむなく、通常の新大阪→松本までの高速バスを利用する事となった。何とか無事予約。

山小屋利用計画の為、例年予約開始日時で、電話がつながった時には予約満室である事がほとんど。涸沢ヒュッテ電話予約担当を土井、中村。涸沢小屋電話予約担当を城戸さん兄弟にお願いした。土井は携帯電話と固定電話2台使用し約600回以上電話するも涸沢ヒュッテに電話繋がらず。中村さんも数十回も電話するも繋がらず。城戸さんの500-600回以上の電話で涸沢小屋に電話が繋がり予約することが出来た。皆さんの協力で何とか計画を実施する事が出来ました。 計画段階では天候が雨或いは雪の予報。天候次第では行動パターンを変更する事が必要な為、数パターンの行動計画を検討していた。

期日が迫るにつれて、予報は好転し、ヤマテン、mountain-forecast、てんきとくらすの全てで3日間快晴予報となった。

行動： **5月2日** 17:40 熊本駅新幹線乗り場待合室集合 城戸幹は新大阪合流

18:03 熊本駅発 さくら号 乗車 21:26 新大阪駅着 乗り換え

21:49 新大阪駅発 アルピコ交通 アルペン号（松本行き高速バス）乗車

**5月3日** 6:10 松本バスターミナル着 6:31 松本駅から松本電鉄 新島々行き

7:10 新島々→上高地 8:15 着 8:33 上高地出発 9:14 明神 10:15 徳沢 11:09 横尾

12:25 本谷橋直前から積雪あり、アイゼン装着した。上部は全て積雪。

15:25 沢小屋到着 **15:40** 城戸邦、城戸幹が少し遅れて到着した。

歩き続けて**約7時間の行動時間**。涸沢小屋泊 小屋泊は1泊2食で13000円。

携帯電話は通じないがWi-Fiが試験開始されていたので使用させて頂いた。宿泊部屋は地下。

涸沢ヒュッテには長野県警山岳救助隊が常駐。

2日には前穂高奥明神沢で3人滑落2人死亡、1人肋骨骨折重症にてヘリ救助されていた。

夕食は最終グループ18:30。翌日の準備をして早々に就寝。

**5月4日** 4:00 起床朝弁当(いなりずし) 4:56 快晴、日の出モルゲンロートとなった。

出発時、土井の知人の棚橋国際山岳ガイドと遭遇。挨拶。

4:56 登攀開始。雪が締まって居る内にザイテングラードの左の小豆沢を登攀。

ヘルメット、ビーコン アイゼン、ピッケル、サングラス、気温が高い、徐々に陽射しが強くなる。**6:23** ザイテングラード取り付き 2600m付近の雪斜面で滑落の危険はあるがシェルを脱ぐ、尚暑い。**7:20** 2780m付近から小豆沢からザイテン上部へ向かって登攀。上部の最大斜度45度前後の雪面を登攀し、**8:03** 白出のコルの穂高山荘に到着。

## 涸沢から白出のコルまでの登り 3 時間 10 分

白出のコルでは岐阜県側からの風が涼しい、気温 1~0°C。長時間滞在すると体が冷える。土井、赤星、中村の 3 人が先に到着。城戸邦、城戸幹の 2 人が少し時間をおいて到着。

土井、赤星、中村の 3 人の体力、疲労問題無し、城戸邦問題無し、城戸幹が少し疲れており、穂高山荘にて待機となった。白出のコルには岐阜県警山岳救助隊が常駐。

県警より雪の状態等情報を頂き、隊員のここまで登攀で、ハーネス+ザイル不要と判断。ハーネスザイル無しで、ピッケルは落とさない様に保持し奥穂高岳登攀開始した。

**8:40** 土井、中村、赤星の 3 人が先行隊として登攀開始。岩場、鉄ハシゴ、鉄ボルトにアイゼンの爪を引っ掛けない様に注意し登攀、穂高山荘直上の斜度約 50~60 度の雪壁をタガーポジション取りながら登攀。下りの人もいる為、下りラインを避け譲り合いながら慎重に。**9:00** 最初の難所雪壁登攀。稜線では雪庇も形成されており、雪庇に注意し登山ルートを見極めながら登攀。**9:20** 山頂直下の斜度約 50-60 度の雪壁を再度タガーポジションにて登攀。

**9:30** 土井、中村、赤星の 3 人山頂に登頂。山頂の祠にお参りし、記念写真。絶景。

槍、富士、後立山、白馬、南アルプス、剣、紺碧の空に白い頂きの山々が君臨する。

写真等では表せない絶景を心に刻み下山。**白出のコルから奥穂高山頂までの登り 50 分**

**9:50** 下山開始、更に慎重に。**9:58 頃** 山頂雪壁下の岩場で赤星転倒、鼻根部に小裂創出血した。意識問題な無く、アイゼンの爪を岩に引っ掛けた様子。転倒した場所も転落の恐れが少ない場所。幸い軽症で止血下山続行した。再下山開始後に城戸邦と接触。待つ事も一考したが、城戸邦隊員も山頂で時間を過ごしたいとの事で、注意を促し 3 人先に下山。穂高山荘で待つ事とした。**10:50** 土井、中村。赤星は白出コルまで下山。

## 奥穂高山頂から白出のコルまでの下山 60 分

城戸邦隊員が白出コルまで下山して来るのを待っていたがなかなか来ない。一瞬不安がよぎったが、**11:40 頃** 元気な姿で下山してきた。山頂でゆっくり時間を過ごしてきたとの事であった。全員で穂高山荘にて昼食を摂りエネルギー補給し、**12:23** 下山開始。

下山時は予想通りだが、雪が解けて、シャーベット状の腐れ雪状態。コル直下の 45 度程度の急斜面を滑落しない様にピッケル使用し慎重に下山。

**12:40 頃** 標高 2870m 付近で中村、約 20m 程度滑落。「ピックを刺す」の他の隊員の声で滑落停止。中村滑落のあおりで赤星が転倒滑落、数 m の滑落で停止した。

その数分後、城戸幹隊員、ピッケルが手から離れており、約 50m 滑落「ピックで止めろ」の皆の声で、体に繋いだピッケルをたぐり寄せ何とか停止した。その後、城戸邦も滑落し、土井も巻き込まれたが滑落なく留まった。城戸邦隊員も数 m の滑落で停止した。幸い腐れ雪なので止まり易い状態となっていた。皆で更に慎重に涸沢まで下山。**14:00** 無事涸沢小屋に下山。**白出のコルから涸沢までの下山 1 時間 40 分**

2 泊目 潟沢小屋宿泊は 12000 円と連泊割引して頂いた。感謝。

4 日午前中には前穂沢で 1 人滑落腕の骨折でヘリ救助されていた。午後には涸沢に長野県警へリ飛来。北穂沢で転倒滑落し仲間と自力下山し涸沢からヘリ救助された。翌日長野県警の救助隊に聞いたら、外傷骨折程度。

**5月5日 4:00 起床朝弁当(いなりずし：前日と全く同じ) 4:54 下山に向けて出発。**

雪が締まっていて足取り軽く下山。

**6:20 本谷橋付近の登り時アイゼン装着した場所でアイゼンを外す。**

**本谷橋と横尾の間でヘリの飛来する音が近くで聞こえていた。またどこかで滑落かなと…**

**7:00 横尾 登りの時に通行止めで使用できないとされていた横尾までの旧登山道が出来れば使用しないでと記載されていたので今まで馴染みの旧道を通ってみる。**

**8:43 徳沢 9:35 明神 10:30 上高地バスター・ミナル到着した。**

### **涸沢から上高地までの下山約5時間30分**

下山に時間が天候次第ではっきりしない為、最終 14:20 のバスを予約していたが、早く下山出来た為、**10:40** の松本行きのバスに変更した。

**下山バスの中で、城戸幹隊員からニュース速報の報告。2600m付近のザイテングラード側面の雪面で、栃木県からの71才男性登山者が、今朝5:00過ぎに400m滑落し死亡との事。我々が登攀したその場所で、我々が涸沢を出発したその時であった。後で確認し判った事だが、土井が撮影した中村、赤星の写真の片隅に黒いゴマの様な小さな影があった。大きく拡大すると、集まつた人影であった。なんと写っていた。**

松本駅到着後、土井御用達の日帰り入浴施設「瑞祥」まで歩いて行き、汗を流す。おいしい昼食も摂った。15:00 過ぎゆっくり徒歩で松本駅へ。お土産物の買い物など行い帰途に着いた。城戸幹隊員は1本早い電車で、自由席で新大阪に向かった。

16:34 着 松本駅 16:54 発 松本駅発しなの20号 19:07 着 名古屋駅

19:17 発 名古屋駅 のぞみ247号 20:06 着新大阪

20:18 発新大阪 さくら573号 新玉名で城戸幹隊員下車、23:43 熊本着 解散

**考察・反省点：**残雪期登山は永遠に心に残る絶景を眼にする事が出来る登山。しかしそれなりにリスクが高い。今回の参加者は、身をもって滑落停止を経験しその必要性が認識できたのでいたと思う。ピッケルの登攀具としての重要性も認識できたのではと思う。

前もって滑落停止の手技の説明や行い方は口頭で話はしていたものの、実技を行っていなかつた事は反省すべき点であった。

我々が登攀したルートで、5月5日には死者も出てる。今回、大きな事故無く終了する事が出来たことは、リスクを回避する種々の手段を取った事で決して偶然ではない事を理解して頂けたら良いのですが、詳細に説明する時間が作れていなかった事が反省。雪山は天候、気温、雪の状態で登攀手段や方法、登攀ルートも違ってきます。参加者の皆が経験し学んで行ければ良いと思います。

1、今回の残雪期登山では雪が降っていない状態でした。夜明けが4:56分であった為、4:00起床5:00登攀。暗い内では足元の踏み跡が見えないので滑落し易くなる。日の出を待っての登山開始。

2、穂高山荘からの夕日、日の出は絶景です。今回、穂高山荘に宿泊しなかったのは、下山時は雪面が硬いと滑落し止まらない為、雪の柔らかい時間帯での下山が滑落事故リスクを少なく

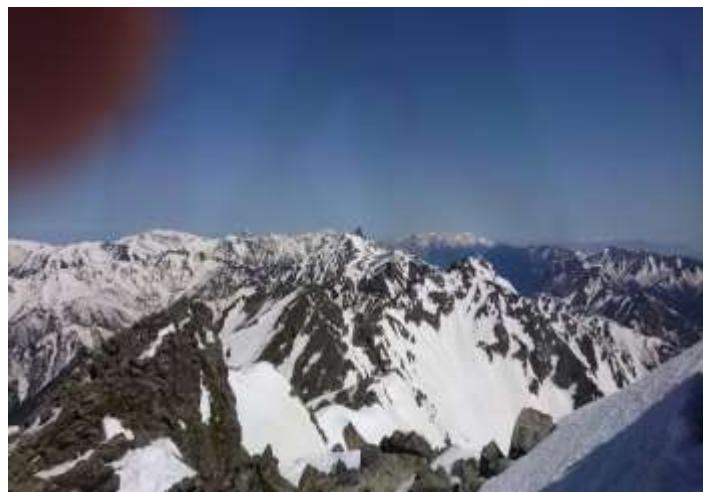
する為、12:00 過ぎの下山。

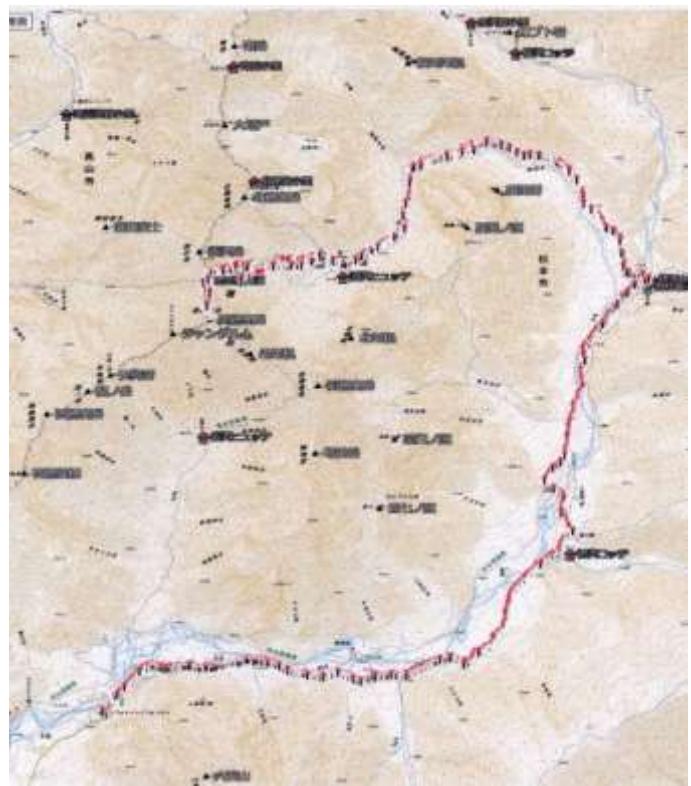
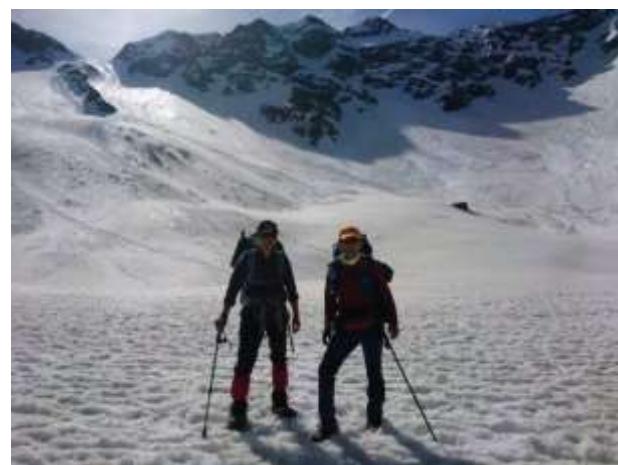
3、休憩時間を取りっていないのは、気温が高い為雪崩発生の可能性が高く、待機が事故を招く為、危険な所を素早く通過する為。

4、今回参加の 5人は体力的にほぼ問題無く登攀できた。体力が無ければ危険個所での停滞を余儀なくされ、よりリスクが高くなる。

5、積雪期登山は、夏山登山の倍程度の体力が必要である事が理解できたのではと思います。

リスクの高い登山は、よりリスクを回避し、登山できる様に進めて行きたいと思います。





## 4 令和5年度干支の山（宝満山とウサギ道）登山報告書

報告者 担当 田北

期日 令和5年5月14日（日）

場所 宝満山（829m）仏頂山（868.7m）福岡県太宰府市 1/25000 地図 太宰府  
登り 宝満山正面登山道 下り 仏頂山からウサギ道を下山

参加者 （9名）中林暉幸・池田清志・田北芳博・田上裕輝・三宅厚雄・岩下律雄  
・増田修一・川上春枝・中村由加里

使用マイカー（2台）田北車 三宅車

登山リーダー 三宅（副担当） 池田

行程 北区役所駐車場 7:40→植木インター→基山パーキング 8:30→筑紫野インター→竈門神社第3駐車場 9:05→竈門神社（トイレ）・登山開始 9:20→正面登山道→車道横断 10:00→一の鳥居車道（修験者一行に会う）10:15～10:25→休堂（水場）10:50→中宮後 12:00 男女道別れ（12:15→宝満山（上宮）山頂 12:37 昼食（～13:25→キャンプセンター～13:37～13:47 仏頂山 14:10～14:15→ウサギ道を下山開始 14:20→宇美新道分岐 15:00→車道 16:00→（ギョ山頂 12:00→昼食（12:00～12:40）→キャンプセンター（トイレ休憩）12:50→仏頂山山頂 13:20→ウサギ道を下山→竈門神社（登山口）15:30→竈門神社駐車場（トイレ）16:00→筑紫野インター→基山パーキング 16:30→植木インター→北区役所 18:00→迎えの車と合流 16:40→竈門神社駐車場 17:00→帰路出発 17:15→北区役所着 17:54→解散 19:03

### 経過

本年の干支はウサギです。ウサギの名の付く山も限られ、今年は宝満山にウサギ道という登山道があり、干支の山登山も行えるので選択いたしました。宝満山は熊本からはアクセスがよく、高速道路を利用すれば登山口まで時間はかかりません。当初貸し切りバス利用の予定でしたが、思うように参加者が増えず、マイカー利用に変更いたしました。結局参加者は9名でマイカー2台利用（田北車・三宅車）となりました。一般募集による参加車は1名でした。季候は花の多い5月で快適な登山が期待できました。登りは宝満山正面登山道、下り仏頂山からウサギ道を下山するよう計画しました。

天候は前日の雨が上がり朝から晴天になりました。竈門神社第3駐車場（一番手前）に到着、竈門神社でトイレ使用後、本殿参拝し登山開始。池田さんが先頭・三宅さんが後方の登山リーダーです。当初は上り坂も緩やかで順調です。一の鳥居車道付近で修験者の一行と出会い、三宅さんなどはひとしきり話が弾む様子でした。また宝満山は福岡県の山でも登山者が特に多いので日曜日でもあり、大人数の登山者でした。

登りは次第に石段の道となり少しづつ急騰になってきます。足の強い人は快調に歩けるのですが、遅れる人もあり先頭と最後尾の時間差は大きくなります。100段ガンギなど有名な石段があります。メインは女道を歩きましたが、小数は男道を歩いたようです。休み休みゆっくり足で登ったので、山頂到着は予定より遅れました。山頂の上宮で昼食です。

仏頂山へはキャンプセンター経由で向かいました。山上でもトイレ休憩ができるて特に女性にはいいように思います。キャンプセンターの先の谷を突き上げて仏頂山に登りました。仏頂山からの下山は干支の山の目的のウサギ道をあります。登りの石段と違い、こちらは普通の土道です。緩やかですが距離は長いです。快調に下山していたつもりでしたが、宇美新道分岐を過ぎたあたりで増田さんが両太腿を引きつったのでしばらく休憩いたしました。そのうち私（田北）が先に降りて車で適当なところへ迎えに来るということになりました。私と岩下さんが早足で下山し迎えに向かいました。私は「山は走らない」主義ですが、急ぎ足で下りて、少しほは早足で歩くことに自信がつきました。

本隊が下山する予想の舗装道（北谷集落の奥）を検討つけて車で登ると、皆そろって下山中に出くわしました。増田さんは両太腿の引きつりも少し軽くなったようであった。健脚の3人に歩きをお願いし、6人乗りで登山口駐車場に下山しました。5時には完全歩き組も到着、5時15分には帰路についた。予定より少し遅くなりましたが、7時には北区役所に全員無事到着、解散することができた。



石段の急登中、チョット休憩



石段を喘ぎながら登る



男道・女道の分岐



宝満山山頂



但頂山山頂



登山ルート（青線は本体下山ルート）



登山口（竈門神社駐車場にて）

※干支の山（宝満山とウサギ道）経費内訳

収入 参加者 1人 3000 円 × 9 名 = 27000 円

支出 支出内訳 30345 円 {マイカー2台利用（田北車・三宅車）7550 円 × 2 台 = 15100

下見代 8790 円（2月20日・平日 参加者 3名（田北・池田・三宅）

タウンパケット代 4510 円、保険代 1000 円、案内はがき代 945 円}

不足額 27000 円 - 30345 円 = 3345 円（不足額は支部費から支出）

## 5 花を愛でる会 萩岳とスズラン

城戸邦晴

5月21日、日曜日、晴。大津町生涯学習センター東駐車場に8時集合。

波野のスズラン自生地は国道57号線の滝室坂を上り、右折して10分程のところにあった。9時頃到着、数人の見学者が目についた。自生地は丘陵になっており、スズランはすぐに見つかった。いたるところに小さな花を咲かせていた。かすかに甘い香りがするような空気。カッコーの声が聞こえた。スズランの他にもいろんな花が咲いていた。もっと見ていていたかったが、人が増えてきたので1時間程で離れた。ここは私たちはもっと訪れてよいのではないかと思った。

次の目的地の阿蘇望橋に向かった。山と畠地が広がり人家はほとんどない中を走ると立派な木造の屋根のある橋があった。平成11年の建立とあった。和製「マディソン郡の橋」といった印象だった。参加者全員が初めての訪問だった。

次は萩岳へ移動。農家の人たちが草刈作業中で、すぐその先にウォーキングセンターがあった。そこが萩岳登山口。登山道は林間を進む。サイハイランが見つかった。上ってゆくと山上へ通じる車道を横切る。樹林帯を抜けると黄色い花が一面に咲く草原だった。オカオグルマ、ウマノアシガタが沢山咲いていた。斜面は次第にきつくなり、胸を突くような登りを経て、30分ほどで萩岳西の山頂へ着いた。ここにもスズランが咲いていた。阿蘇市波野支局によれば山上のスズランは自生ではないらしい。振り返ると阿蘇の根子岳、高岳、杵島岳が、東には祖母山、傾山が、北には九重の山々が、眼前にくっきりと見えていた。これらの山群の中央に萩岳は位置するのだ。ここは絶好の展望台だった。四阿で昼食。テレビ塔のある東の山頂に行き、記念写真を撮った。そして再び黄色い花の咲き乱れる草原の尾根を、阿蘇の山々を正面に見ながら下った。登山口には萩神社があり、中江神楽殿もあったが、閉まっており、無人だった。

帰りに南阿蘇のビジターセンターに立ち寄った。植物園にも入ったが、観察には時



自生地のスズラン



萩岳山頂

期尚早の感であった。

今回はきつい登山はなくて、美しい花にたくさん出会えた気持ちのよい観察登山だった。大津に4時頃帰りつき解散した。

(観察できた花) ウマノアシガタ、イブキトラノオ、カタバミ、カノコソウ、オオヤマフスマ、サクラソウ、シライトソウ、スイバ、スズラン、セイヨウタンポポ、ゼンマイ、ツクシシオガマ、ナルコユリ、ニガナ、ノアザミ、ハルジオン、ヒメハギ、フキ、ムラサキサギゴケ、オカオグルマ、シロツメクサ、ヤマボウシ、サイハイラン、ニワゼキショウ、ミヤコグサ、ベニドウダン、エゴノキ、(計28種)

(参加者) 石井文雄、中林輝幸、田北芳博、橋本悦子、松尾重勝、川上春枝、武田偉幸、城戸邦晴、(計8名)



オカオグルマと阿蘇（根子岳・高岳）



オカオグルマ



## 6 春の登山教室 くじゅう「黒岳」登山

担当 中村 寛

くじゅう山群の中で東端に位置する黒岳は、草原に囲まれ登り易い他の山に比べて原生林に覆われていて比較的マイナーと思われている山です。しかし湧水地のある静かな登山口には多くの方が、観光に訪れます。今回は、ここから原生林の中の登山を楽しみました。

日時 令和 5 年 5 月 28 日(日)

行先 くじゅう連山 黒岳(高塚山)

集合場所 午前 6 時 30 分 大津町学習センター ここでバス乗車

行程 6:30 大津発～8:10 男池着

8:30 男池発～9:40 ソババッケ着

11:00 風穴着～12:30 高塚山着(食事)

12:50 高塚山発～17:00 男池駐車場

参加者(敬称略) 原田政治、石井文雄、中林輝幸、池田清志、田北芳博、城戸邦晴、  
橋本悦子、松本博美、土井理、坂本雄二、森美代子、前田節子、  
中村寛、森尾奈美、木下昭二、本田敦子、村上浩明、赤星隆弘、  
川上春枝、武田偉幸 以上 20 名です。



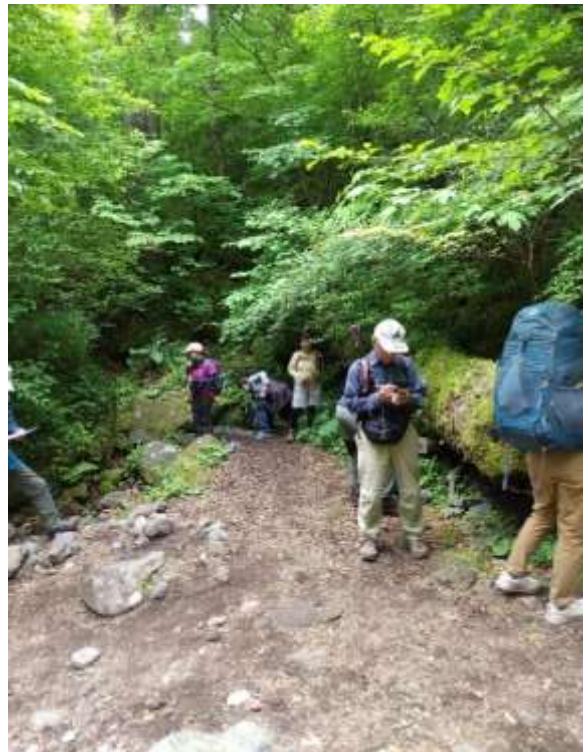
遊歩道も整備されていて、水汲みや観光客もいます。この湧水量は非常に多く、1日に2万トン1時間で小学校の小さなプール2杯分になるそうです。

9時40分 ソババッケ着。開けた泥地に枯れた木が沢山あります。名前の由来は、以前そば畑があったことからきています。人の営みが、こんな山奥にも見られました。

11時00分 風穴着。ここは、今水登山口からの分岐になります。休憩して、遅れた仲間を待ちます。風穴には、キャップライトを付けて5名降りました。床は凍っていて天然の冷蔵庫です。ここは、養蚕の蚕種の保存に使われていました。ちなみに蚕は、家畜のため一頭、二頭と数えるそうです。そうだったかな?と思いますが。これまで、足元にバイケイソウ、そしてもう花を落としたシャクナゲの木を見ながらの原生林の中、岩場をあるきましたが、これから頂上の高塚山までは、急登が続きます。ここでリタイアした2人を残して、私は最後尾で登りました。

12時30分 高塚山着。頂上は、狭いので分散して、食事を摂りました。ミヤマキリシマも、もう少しというところです。最初見えていた天狗岩もガスや降り出した雨で見えなくなりました。写真を撮りましたが、記念撮影は、少し降りた天狗岩との分岐で撮りました。

17時00分 男池駐車場着。下りで数名の故障者が出来ましたが、無事に全員着きました。時間があれば、ゆっくりと探索してもいいし、2キロ先の白水鉱泉で炭酸水を汲みに行かれてもいいと思います。この後なら10月末の紅葉シーズンが見頃。



湧水地のすぐそばの岩を取り込むケヤキ。かくし水で一休み、水はこの後また地下に。



ソババッケです。写真は、帰りの時のもので後ろの組が追いつくのをここで待ちました。



木下さん、村上さん。風穴は凍っていて蚕種の保存につかわれ、小部屋が4つあります。



ミヤマキリシマと後方は天狗岩



何時も気になる人の顔に似たサルノコシカケ



左から、川上さん、森さん、松本さん、池田さん、本田さんです。出来るだけ皆さんのが写真載せたかったのですが。またスマホの写真で暗くなってしまいました。



頂上は狭いので、天狗岩の分岐で撮影。

#### くじゅうの登山のマナーについて

長者原ビジャーセンター 0973-79-2154

- ① 登山前に登山計画を。 全員が知っておく事。
- ② NO 軽装登山。 雨具、コンパス、キャップライト、衛生用品も。
- ③ 登山届の提出は忘れずに。
- ④ トイレは登る前に。
- ⑤ ペットの連れ込みは、控えて。

野生動物との感染病の相互感染の恐れや狭い登山道では、動物の苦手な方の迷惑に。

- ⑥ ストックにはキャップを。鋭い先で植物や土を突くことが、登山道等の荒廃の原因に。
- ⑦ 登山道を外れない。危険個所や植生保護区があります。決められた登山道を歩くよう。野生動植物を傷つけない。他にゴミの持ち帰り、火気注意（立中山で火災）等あります。

## 7 初夏の例会「御前岳 & 釧路岳」報告

担当 / 戸上 貴雄

令和5年6月18日（日） 曇り時々薄雨、後半しっかり晴れ

担当のヤマップ記録 レコードタイム：6時間16分（うち昼食含む休憩1時間10分）、距離：7.9km、累積標高差：820m

参加者 … 赤星隆弘・池田清志・池田のり子・石井文夫・川上春枝・城戸邦晴・坂本雄二・田北芳博・戸上貴雄・

中林暉幸・本田敦子・前田節子・松尾重勝・山本直 <計14人>

当初行事名「春の例会」を「初夏の例会」と改め、また、登山対象を「三俣山」から変更して実施した。

集合場所の「すいかの里 植木」を、赤星・池田・田北・戸上の各車に分乗して出発し、旧鹿北町の鹿牟田峠を越えて福岡県へ入り、日向神湖を左に見てさらに進み、トイレタイム用に予定していた「観光物産交流施設 桜の里」に寄り忘れた車もあったが、とにかく登山口の「桜の里渓流公園」駐車場に到着した。

登山口（標高約630m）から林道に出るまでは、概ね渓流（御側川支流）を右に左にと渡渉しながら、自然林の中を気持ちよく歩く。滑りやすい所もあるが、乗っかる石を選んでゆっくり丁寧に歩けば問題なし。

林道に出てからは御前岳山頂までずっと急登の登山路となり、それまでの楽しい会話もなくなり、黙ってひたすら足を上げ続ける。

展望に優れた御前岳山頂 1209m に全員が到達した直後に、城戸さんが地理院地図やコンパスを利用した山座同定について説明があり、八方ヶ岳・三国山・国見山・姫御前岳・雄岳などを確認する。

ヤマシグレ、ベニドウダン、ネジキの花のある山頂で弁当を頂いてから縦走路を東へ進む。

木々や野草が茂っているもののヤブ化していないので極めて歩き易く、正に快適そのものである。

マタタビやサルナシ、ウリノキ、コガクウツギの花を愛でながら、また、ナガバモミジイチゴやクマイチゴの実を食べながら歩を進める。

鎖の設置された岩場二箇所を上がってしまうと、お釧路様が鎮座する石像のある釧路ヶ岳（本釧路）1229.5m の山頂へヒョクッと飛び出す。振り返って眺めると、先ほどの御前岳は意外と鋭峰である。



御 前 岳

釧路ヶ岳から先は約10分で福岡県最高峰 1231m の普賢峰に到達する。山頂には通信中継施設で占められてしまっているが、展望に優れ、渡神岳ほかの山並みを楽しむことが出来る。

ここからは下山の形となり、「矢部越」に下りた後も車道を歩かずに山道を下り、オオキツネノカミソリ群生地（ただし全く咲いていない）を過ぎ、二回横断して出た車道を最後までテクテク歩いた。

舗装された車道歩きは味気なくてつまらないものだが、途中にある大滝を見物したり、大吊橋を渡って下を流れる谷底を眺めたりして楽しんでいたら出発地の渓流公園に到着した。

渡渉あり、急登あり、鎖・ロープ場あり、見晴らし良し、快適縦走、花あり実あり、事故なしでグー！

参加費(ガソリン代) … 車路往復 120km × 25円 = 3,000円 × 4台 = 12,000円

12,000 円 ÷ 参加 14 人 ≈ 857 円 ⇔ 端数切上げ 1,000 円/人を徴収  
 収入 14,000 円 (1,000 円 × 14 人)  
 支出  
 • 車両提供運転者へ支払 12,000 円 (3,000 円 × 4 人)  
 • 熊本支部会計へ寄付 2,000 円 (収入 14,000 円 - 上記 12,000 円)



登山口	09:28
林道に出る	10:35
御前岳山頂	11:40
<弁当タイム>	
縦走開始	12:18
駿迎ヶ岳山頂	13:40
普賢峰山頂	14:01
矢部越	14:30
車道歩き始め	15:00
大滝	15:20
大吊橋	15:38
登山口到着	15:45
登山口／杣の里渓流公園	



山座同定講習



駿迎ヶ岳山頂にて 後方は御前岳

## 8 蓼原湿原自然観察会

城戸邦晴

7月10日、日曜日、晴、午前8時；大津町生涯学習センター東駐車場集合。

乗用車5台に分乗し、大津を8時5分に出発、長者原に9時20分着。9時35分から長者原ビジターセンターでタデ原湿原の紹介映像を見て、その後三班に分かれて、九重自然を守る会のガイド説明を聞きながら自然観察路に入った。タデ原の語源になったというアオタデは伝説の朝日長者が好んで食べたそうだ。ちぎって口に入れたら少し辛かった。そうめんに入れて食べるとよいらしい。

ハンカイソウが沢山あった。大きな花である。ノハナショウブは盛りを過ぎていたが、きれいな形をとどめているものもあった。キスゲはつぼみだったが、これは夕方に開く花だから仕がない。クララ、ヒメユリ、オカトラノオもあった。ヒゴタイはいまひとつだったが見ることができた。ネジバナ、チダケサシ、食虫植物モウセンゴケも見られた。水中にはタカハヤが泳ぎ、空にはセッカが飛び、自然観察会にはちょうどよい環境だった。三俣山が迫り、硫黄山、星生山がくっきりと映えていた。

ここでは3~4月に野焼きが行われる。事前に輪地切りをしているが、野焼きの火勢が強くて木道の一部に焼け焦げた個所があった。そしてここでも鹿害があり、ノリウツギを食べた跡があった。森に入るとクヌギ、コナラ、ミズナラ、カシワが並んでいた。こう並べて見ると樹皮と葉と実で各種の違いがよく判る。参加者皆さん納得した顔をしていた。この先にブナもあって、どんぐり仲間各種の比較ができる満足の様子だった。

この日は青空に白雲がわく好天で、木道には登山者が行き交い、家族連れも多かった。日焼けを心配しながらの観察会だった。現地ガイドの説明を聞くのは初めての試みであり、話は面白かったが、各班の説明に多少のバラつきがあったのは否めない。12時10分頃引き上げて、あずまやのある広場へ移動、1時20分まで昼食と休憩。アイスクリームを買い



蓼原湿原散策風景



蓼原湿原とユウスゲ



ノハナショウブ

に行った人が戻ってくるのを待って、1時20分頃現地を出発。帰路には田野の名水を汲む人もいたが、直行にて2時45分に大津へ帰着となった。

今回は一般公募であったが、応募者は16人に上った。その後辞退者が出て最終的には13人になったが、会員・会友の11人を上回ることになった。人気の理由は参加費が安かったこと。会員の車に分乗してゆく形が、一般的に行われるバス貸し切りより格段に安価であったことだろう。会員・会友と一般参加者をうまく組み合わせて車割りと班分けをするのに気を使つたが、結果的には和やかな、混合とも見えない雰囲気が出ていたようだ。高齢者が多かったので、会員数増加には結びつかないだろうが、今後の公益事業を考える材料になったのではないだろうか。

#### (観察できた植物)

ノアザミ、アオタデ、ヤマアザミ、ウド、イタドリ、オトコヨモギ、オカトラノオ、ヒゴタイ、マルバハギ、ヒメヨモギ、ハンカイソウ、マムシグサ、クララ、ヌマガヤ、ヨシ、タチカモメヅル、ヒメユリ、ノハナショウブ、キスゲ、チダケサシ、コバギボウシ、モウセンゴケ、ミズオトギリ、オタカラコウ、カワラマツバ、ツルニンジン、ツルリンドウ、オオバノトンボソウ、ネジバナ、

ノリウツギ、ヒメコブシ、ナツツバキ、アセビ、リョウブ、ヒメシャラ、ヤマフジ、タラノキ、クヌギ、コナラ、ミズナラ、カシワ、ハリギリ、ヤマハンノキ、ウワミズザクラ、ウリハラカエデ、ネジキ、エゴノキ、コシアブラ、ブナ、オトコヨウゾメ、シラキ、タンナサワフタギ、ツルシキミ、イヌツゲ、ナナカマド、ヤマボウシ、アサガラ、ツタウルシ、マンサク、ミツバアケビ、カナクギノキ、ミズキ、キハダ

(参加者) 土井理、中林輝幸、池田清志、田北芳博、山本直、松尾重勝、前田節子、脇元公明、本田敦子、川上春枝、城戸邦晴、(以上会員会友11名)、

松本博子、古賀あけみ、松下薰、梶村信雄、梶村明美、長浦淳子、木村香澄、山崎俊子、上田れい子、小牧ゆみ子、伊牟田保代、岩本寿美代、工藤幸子(以上一般参加者13名)、



## 9 登山技術講習会(くりから谷)

阿蘇 俱利伽羅尾根-俱利伽羅谷 岩登り・沢登り講習会報告

担当 土井 理

期日: 2023年7月30日(日曜日) 天候: 朝小雨 後晴れ

場所: 阿蘇: 俱利伽羅不動 俱利伽羅谷 俱利伽羅大滝

参加者: 土井理、赤星隆弘、中林暉幸、城戸邦晴、山本直、中村寛、岩下律雄、浦川留美、甲斐奈々子 の 9 名 集合場所: 大津生涯学習センター駐車場

8:30 集合出発時天候は雨、赤星さん、中林さん 土井の車、3台に分乗し出発。

南阿蘇白水店のセブンイレブンでトイレ停車し、トイレ買い物等。

9:40頃 俱利伽羅谷(俱利伽羅大滝)登山口到着、9:50 俱利伽羅尾根に向かい登山開始。10:20 俱利伽羅尾根の不動分岐到着。俱利伽羅不動に向かって降りる。10:30 俱利伽羅不動到着。お堂の内部見学参拝。10:40 から急斜面を懸垂下降開始。

立ち木を支点とし 50m ザイルをダブルで使用し、各自ハーネス装着、下降器(ルベルソ、ATC、エイト環)使用し、フリクションノットをマッシャースリングでバックアップとして、安全に懸垂下降した。25m 懸垂下降時点でもまだ半分も下降出来ておらず、2本目の 50m ザイルで同様の方法で懸垂下降した。残りは徒歩で慎重に降下し、俱利伽羅谷に到着した。俱利伽羅谷到着時 12:20 となっており、予想以上に時間を費やした。

全員に、バックアップ付きの懸垂下降を実際にを行い経験して頂き、習得して頂いた。

俱利伽羅大滝下の滝は、下見の時に増水していた水は少なくなり。滝の遡上可能な程度まで水位は低下していた。今回は時間も 12 時過ぎた為、当初の予定の巻き道ルートを使用する事とした。次回は滝の遡上を計画したい。

俱利伽羅大滝下に到着し、昼食軽食。大滝上部に支点を作成し大滝での登攀・岩登りを行なった。

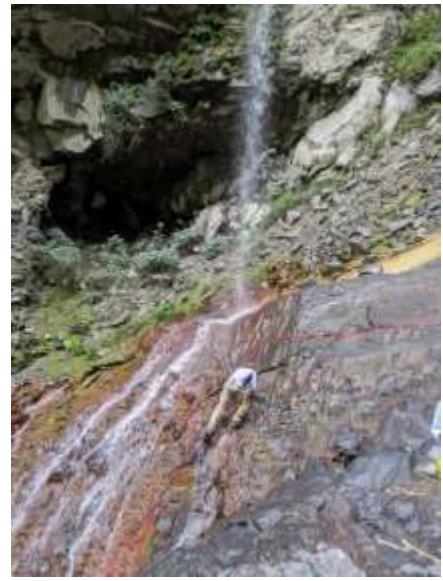
垂直距離が短い為、岩稜のトラバースを行う様に支点作成し、簡単な岩稜登り、トラバースを行った。

15:40 俱利伽羅大滝を後にして、巻き道使用し俱利伽羅谷を下った。砂防ダムは下流に向かって、左岸のう回路を下山。16:15 全員無事に俱利伽羅谷登山口の駐車場に到着。

時間が遅くなつた為、入浴せず、途中南阿蘇白水店のローソンでトイレ停車し大津駐車場まで帰途に着いた。

反省点: 雨量でルートが大幅に変化する事を経験した。もしもの為のライフジャケットがあれば良いのではと考えた。前もってルートの一部のみでなく、全ての岩質のチェックは必要であった。次回の検討事項となった。







# 10 九州5支部集会

第3回九州5支部集会(5支部懇談会)及び 第14回山の安全を祈る集い 報告  
九州で一番標高の高い温泉「法華院温泉山荘」に集う 熊本担当 土井 理

期日 2023.8.5(土)-6(日) 主催 日本山岳会 東九州支部 場所 法華院温泉山荘

熊本支部参加者 11名 大船林道経由:廣永峻一、池田清志、田北芳博、

吉部-大山林道経由日帰り:城戸邦晴

牧ノ戸登山口:中林暉幸、松本博美、山本直、坂本雄二、岩下律雄、中村寛、土井理

5日:集合場所:大津生涯学習センター駐車場 天候:5日曇りのち雨

集合時間:大船林道組は7:45集合し、田北さんの車に分乗し 大船林道乗り入れ車集合場所のやまなみハイウェイの飯田交差点(JA 九重町飯田高原ドライブイン)に 10:15 分に間に合う様に出発。城戸さんは1人日帰り登山の為、吉部登山口に車を置いて入山。

牧ノ戸組は 8:30 集合し岩下さん、中村さんの車に分乗し出発。

9:40 牧ノ戸到着、雨の予報なので駐車場は空いていた。9:50 登山開始—沓掛—久住分かれ—北千里—12:20 土井、中村は法華院山荘到着、13:30 に全員が法華院山荘に到着。

各自受付。宿泊は2階の大部屋 費用 13000円(1泊2食、懇親会) お弁当 1000円

到着後温泉入浴し各自汗を流した。到着が遅れた支部もあった為、13:45 から開会。参加者約60人。東九州支部の事務局や安東支部長の開会挨拶。その後アンケート調査のあった各支部からの現状、課題等の報告があった。熊本支部からは土井が報告した。

報告後、法華院山荘の外での写真撮影。

16:00 から 東九州支部 前支部長の加藤英彦さんより、昭和5年8月に九重で遭難した2人が低温症で亡くなった事。昭和6年に慰靈碑が建立された事。平成22年から法華院山荘と東九州支部の共催で、8月第1日曜日を「山の安全を祈る集い」として慰靈祭を開催している事。平成27年に慰靈碑が台風で倒れていた為、10月に再建工事をした事等の報告が写真や動画を用いての説明があった。

17:00 から 日本山岳会理事兼千葉支部長で大分県出身の松田宏也さんより、ミニヤコンカで遭難し、凍傷で手足を失った事。義足での登山やスキーを再開始した事。義足で冬の斜里岳に登頂した事等、ビデオを交えての報告があった。

18:30 頃城戸さんは法華院山荘の車で吉部まで送ってもらえる事となり、当日無事帰宅。

18:45 から食堂で支部ごとに分かれての懇親会が始まった。夕食にはビールが1本ついていた。ふるまい酒も用意されていた。20:00 過ぎからは2次会として同じ食堂でさらに宴会が行われ 21:00 頃にお開きとなった。

6日 天候は雨→小雨。

6:45 各支部ごとに朝食。御池横の慰靈碑迄登山し慰靈祭が計画してあったが、雨の為慰靈祭は中止。8:00 過ぎから法華院山荘の大部屋にて慰靈の法要が行われる事になった。法華院山荘は元来、法華院白水寺と言う天台宗のお寺から派生しており、法華院のご主人がお経を上げられた。約30分

の法要後、全員で坊がつる贊歌を合唱し終了した。

8:50 頃雨の中再度の集合写真撮影し、解散となった。

御池近くでの法要が無くなった為、牧ノ戸迄が雨の中の登りの登山となる為、大船林道の田北さんの車に、岩下さん、中村さんに乗車し、牧ノ戸迄乗せて頂き、2人に長者原まで車移動して頂き、残りの5人は雨ヶ池経由で長者原迄下山し合流する事となった。途中、雨は降ったり止んだりを切り返していたが、11:00 長者原到着時、雨はほぼ上がっていた。11:30 頃大津駐車場に向けて帰途に着いた。

私は全く知らなかつたが、九州 5 支部集会は 2 年間隔で持ち回りとの事、かつての支部総会で決まつていたそうで、2 年後は熊本開催である事を、東九州の安東支部長より教えて頂いた。中林前支部長や松本元支部長から話を伺い 2 年後に向けて対応策を検討したいと考えたいと思います。





# 11 日本山岳会熊本支部古道調査 PT 修験道古道コース報告書（8月25日現在）

報告者 三宅厚雄

## はじめに

古道調査に取り組み始めて2年余が経過し、この間PTメンバと協議・活動を実施してきましたが、現在、ほぼ順調に進捗していると確信します。その過程においては試行錯誤しながらも定例会議及びオンライン会議で意見を交換し、綿密に計画を立てて着実に実行してきました。既に実行した行動は役員会で随時報告し、支部報でも時折掲載・周知されていると思いますが、模索しながら積極的に聞き取り調査や文献資料による情報収集等に足を運び、その成果を原稿にまとめ、本部へ送る時期に来ました。

※活動内容としての定例会（meeting、on-line会議）は除いています。

日付	目的 地	活 動 内 容	参 加 者	特 記 事 項
4月10日 (月)	馬の背古道（藤谷 神社 から阿蘇山上神社	地図を基にPTによ る下見登山（初回）。	中林、池田、田北、城戸、 松尾、三宅 6名	初回下見登山
6月10日 (土)	支部行事阿蘇山修 験道の古道（馬の 背古道・大曲～阿 蘇山上神社～黒川 牧野道～大曲）	現地調査 地形確認、写真撮影、 植生、距離、所要時間	中林、池田、城戸、松尾、 山本、戸上、前田、本田、 三宅 9名	支部行事としての活動。 麓坊中(大曲～山上神社～、 古坊中(大曲) ※阿蘇山上神社、例大祭が 行われていた、
7月17日 (月)	例会定議（大津道 の駅）の後、古坊中 古道付近	古坊中の唯一の埋没 石碑探索	中林、城戸、池田、田北、 三宅 5名	かねてより探索していた逆 修碑(生前供養碑、卒塔婆石 碑)を手分けして検索、本物 を発見できた。（当時の古 坊中を物語る現存する唯一 の石碑
8月24日 (木)	麓坊中界隈の大曲 までの古道	阿蘇神社祈禱古道、 お茶屋跡調査	中林、城戸、池田、田北、 三宅 5名	工藤顧問提供の古道ルート 地図でお茶屋跡を中心に調 査。お茶屋跡の痕跡は発見 できず。





1 2 会員の異動	事務局 山本 直
会友 入会	武田 偉幸
会員 退会	宇都宮 信夫

## 編集後記

今年になりコロナ禍が収まり、人の往来も活発になり、いろいろなイベントも通常に戻って参りました。日本山岳会熊本支部の活動も活発になって、3年のブランクを取り戻すべく積極的に山に繰り出している会員も多いのではないでしょうか。

今回の各行事担当からの報告書は特に写真など多く、思い出に残る写真ですので、報告者の意思を尊重して掲載することに致しました。支部報も32ページとなり活動が活発になった証拠だろうと思っております。

また、先号より歩いた登山コース地図をなるべく掲載するつもりでおります。地図で歩いたコースを見ると一段と自分の歩いたコースが明確にわかるものだと思います。

なお、現在古道調査プロジェクトチームを作り、定期的に会合を行い、現地調査にもよく出ております。その現地調査も終盤に近づき、まとめの段階に移ろうとしております。古道調査の各メンバーが頑張っておりますのでご支援のほど宜しくお願ひいたします。

今後もよい会報になるように努めて参りたいと思っております。宜しくお願ひいたします。

田北 芳博 Eメール [yt19-57@tune.ocn.ne.jp](mailto:yt19-57@tune.ocn.ne.jp) 田北 09087611471.